

ガーデンシティふかや推進室[ふかや緑の王国・深谷市榎引24-2(花植木流通センター隣)] ☎551-5551
花を愛し、人を愛し、地域を愛するまちづくり!!

緑の王国 わくわくどきどき 体験の夏 2022 SUMMER in 緑の王国 お問い合わせは『ふかや緑の王国』へ

自然素材で“ものづくり”を体験しよう!

キッズプログラム木のオブジェづくり教室

とき 8月4日(休)午前9時～
ところ ふかや緑の王国
定員 先着10人(小・中学生)
参加料 500円
内容 木でウサギのオブジェを作ります
申し込み 7月13日(休)午前8時30分～電話でふかや緑の王国へ(1回の申し込みで2人まで)



▲木のオブジェづくり教室の様子

ふかや村の小川に入ってどじょうをつかまえよう!

第10回 どじょうのつかみどり体験

とき 8月6日(休)午前10時～
ところ ふかや緑の王国
定員 先着20人(中学生以下)
参加料 500円
申し込み 7月13日(休)午前8時30分～電話でふかや緑の王国へ(1回の申し込みで2人まで)
※ぬれてもよい服装でお越しください。



▲どじょうのつかみどり体験の様子

第14回森の音楽祭 & 第11回花の音楽祭 出演者募集!

第14回森の音楽祭 & 秋まつりinふかや緑の王国

とき 10月15日(休)午前10時～午後3時(雨天中止)
ところ ふかや緑の王国(特設ステージ)
定員 20組(応募者多数の場合は抽選)
その他 アコースティック(生音)演奏に限る
申し込み・問い合わせ 7月15日(金)～8月31日(休)に応募紙をファクス(☎551-5552)または直接ふかや緑の王国(☎551-5551)へ
※新型コロナウイルス感染拡大による中止の場合は、動画配信を予定しています。



▲森の音楽祭

第11回花の音楽祭 & 秋野菜まつりin深谷グリーンパーク

とき 10月29日(休)午前10時～午後3時(雨天中止)
ところ 深谷グリーンパーク(特設フラワーステージ)
定員 10組(応募者多数の場合は抽選)
その他 電子楽器・音響装置(電源100Vまで)
申し込み・問い合わせ 7月15日(金)～8月31日(休)に応募紙をファクス(☎574-8611)または直接深谷グリーンパーク(☎574-5000)へ
※新型コロナウイルス感染拡大による中止の場合は、動画配信を予定しています。



▲花の音楽祭

参加者募集!

香る『ジェルキャンドル・ランタン』作り

二重になったグラスに花などを入れ、香りをつけた透明ジェルを流し込んで作る『ジェルキャンドル・ランタン』を作りますか? 香りは6種類の中から選択でき、ティーライトキャンドルを交換すれば何回でも楽しめます。
とき 8月24日(休)午前10時～11時30分
ところ ふかや緑の王国
定員 先着12人
参加料 3,200円(材料費を含む)
講師 小林悦子氏(ラバンヌーボ キャンドル&フラワースタジオ森林公園)
申し込み 7月20日(休)午前8時30分～電話でふかや緑の王国へ(1回の申し込みで2人まで)



▲ジェルキャンドル・ランタン

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、中止になる場合があります。
※体験および教室では各自でマスクを準備し感染予防対策をしてください。
※熱中症対策として水分補給のため各自で水筒などを用意してください。



深谷市UACJ障害福祉助成事業

障害福祉課 ☎571-1011 ☎574-6667

深谷市UACJ障害福祉助成事業は、(株)UACJおよびその関連会社からの寄附を基金に積み立て、これを財源として、市内の障害者福祉施設における施設工事や備品調達などを行う際に要する費用の一部を助成する事業です。

寄附金は、平成19年度から継続して受納しており、その総額は、今年度で3,000万円を超えます。寄附による資金は、障害者福祉施設の玄関スロープや手すりの設置、エアコンの購入などに使われ、施設利用者の生活環境の向上などに役立てられています。

市では、社会貢献活動に積極的な企業などから寄せられる寄附なども活用しながら、「誰もが自分らしく 幸せに暮らせるまち ふかや」を目指して、今後も障害者施策の取り組みを推進していきます。事業の詳細については、障害福祉課へお問い合わせください。



【寄附者の声】

これまで行わせていただいた寄附が障害者の方々のお役に立っていると伺い、大変うれしく思います。今後もUACJ深谷製造所はさまざまな活動を通じ、「誰もが自分らしく幸せに暮らせるまち ふかや」づくりに参加したいと存じます。

◀(株)UACJ深谷製造所宮地所長から寄附を受納しました



【障害者福祉施設管理者の声】

この事業のおかげで、施設を改善するきっかけづくりや決断ができて、施設利用者が安心して利用できる環境を実現することができました。活動の幅も広がり、施設利用者やスタッフ一同大変喜んでます。

◀助成を受けて整備した障害者福祉施設のスロープと手すり

畠山重忠を知る

奥州攻めでの活躍と頼朝の人京

武蔵武士の鑑

畠山重忠



文治3年(1187年)、源義経の強力な庇護者だった奥州の藤原秀衡が死去し、その2年後には跡を継いだ藤原泰衡が義経を自害に追い込み、その首を鎌倉に送ってききました。
文治5年(1189年)、藤原秀衡が義経をかくまってきたことを理由に、源頼朝自ら大將軍となつて向かった奥州攻めで先陣を任されたのは、畠山重忠でした。
藤原泰衡は陸奥国阿津賀志山に堀と土塁を築いて対抗しましたが、重忠は既に準備していた鋤鍬を持った80人の工兵隊により埋め立てました。この戦いで、自分を差し置いて抜け駆けしようとした葛西清重らの行動を

また、重忠は「京都に馴る男」とされた御家人の中におり、平氏に仕え在京していた父重能に従つて京都に滞在する時期が長かった可能性がります。京都で培った文化的素養を持ち、容姿だけでなく立ち居振る舞いも洗練されていたのでしょう。
鎌倉入りの際もそうだったように、重忠は特に重要な目立つ場面で先陣を任されるのが非常に多く、実際も大河ドラマのような美男子だったことが想像できます。
その後、建久元年(1190年)、頼朝は千余騎の御家人を率いて京都に入ります。その様子は「其の行列、先づ貢金の辛櫃一合次に先陣畠山次郎重忠、黒系威の甲を着け、家子一人、郎等十人等之を相具す」と『吾妻鑑』にあり、大勢の観衆が集まる一大セシモ二一の先頭として、大変名譽だったことがうかがえます。
悠然と見逃し、捕虜となった敵將の由利維平の取り調べでは、相手の名譽を重んじた扱いて心服させるなど、重忠の度量の大きさと優れた人格を示す逸話が残っています。